

大津地蔵祭

題字：翔陽高校2年 書道部 東美咲さん



大津地蔵祭が8月23日、24日に大津中央公園で開催されました。町内外からたくさんの方の来場客でにぎわいました。

翔陽高校書道部のパフォーマンスに始まり、町内外の団体がダンスや歌、太鼓とステージは大盛り上がり。天気にも恵まれ、会場はたくさんの方の笑い声に包まれ、元氣な大津町が感じられる地蔵祭になりました。

そして、今年は花火が30年ぶりにあがり、会場では大津太鼓の皆さんと花火との共演をみることで、花火が上がると同時に感動の音が響きました。

花火にかけた主催者の皆さんの思いを一緒にお伝えします。



1



2



3



4



5

1 TeamOHMURAの皆さんの好きな服を着てタンパリンを使ったダンスは会場を巻き込み大盛況 2 忍者衣装の幻想的なダンス 3 おいしい韓国料理はいかが？ 4 県内の和太鼓5団体が合同演奏 5 高校生バンドあられ☆解散前、最後のステージは大津地蔵祭 [いい思い出になりました]

Interview

町が一丸となり取り組めたことが何より

祭り成功のため



まつなが ゆきひさ
松永幸久さん
大津地蔵祭実行委員会
実行委員長

大津地蔵祭は子どもたちのための歴史あるイベント。花火を会場から見ている子どもたちの「花火よかったね」と話している姿をみて喜びを噛み締めました。復興へ向かう決意を表すためにも今回の花火はとて意味のあるものになりました。皆で作る祭りのあるべき姿がありうれしかったです。

ノウハウのない中、一から花火を実現

花火のため尽力



よしみ いさお
吉見 功さん
商工会 観光委員長

私は山都町出身で「祭り＝花火」の思いがありました。5年前、宮崎県で祭りが一時途絶えたけれど、花火を復活させた地域の話を聞き、町でも一からでも上げられるのではないかと思い、挑戦を呼びかけました。皆さんの助けを借りて、一緒に走り回ったおかげで実現できました。ただただ感謝です。

24日の祭り終盤。中央公園、北東の方向に約1600発の花火が大津太鼓の演奏とともに上がりました

次代へ続く光

会場の中央公園で松永さんが空港から飛行機の最終便が終わった連絡を受け、打ち上げ会場の吉見さんに電話をします。

待機する吉見さんの携帯電話が鳴ると遠くにいる男の子とお父さんの会話が耳に入ります。

「お、連絡とりよんなるけん、もうすぐあがるかもね」

「やったー」男の子は飛び跳ねます。その姿をみて吉見さんは胸がいっぱいになりました。町民が一丸となって作り上げた祭りにみんなの願いが実現し、子どもたちが喜んでくれることに。

子どものころ、花火が大好きだったかつての自分を男の子に重ね、花火師に点火を伝えます。

「子どもたちの笑顔がずっと続きますように」と願いをこめて。

